

連載

## ビジネス的発想からの提言(9)



イエス・キリスト教会・家の教会伝道師  
エリヤ会会員  
元カネボー薬品社長

三谷 康人

## 『三つの視点』で変革を

『エリヤのように』の中から

## 福音宣教の玉手箱・・・『エリヤのように』

エリヤ会は宣教師の発題で、日本におけるクリスチャン人口の壁を破るにはどうしたらよいか？ 毎月、宣教師、牧師、ビジネスマンが集まり、討議し、六年間の内容を記録したものが『エリヤのように』となりました。(約五〇〇ページでイーグレープ出版、税別二八〇〇円)

この本には「キリスト教への好意促進とクリスチャン拡大の為の調査」の報告書等もあります。

例えば宗教に対する関心、キリスト教との関わり、関心度、聖書について、クリスチャンやキリスト教に対する印象、教会に行かない理由、又行くきっかけ等。性別年代別相違

この本は福音宣教の玉手箱で参考になる事が沢山あります。

三つの視点から  
変革の方向を知る

(神、信徒、未信者)

この本の中の『日本キリスト教界の現状と展望』で、三つの視点を提言しました。

人は誰でも自分の視点、立場から物事を見ます。それに対して次の三つの視点(神、信徒、未信者)から見ると現在の自分がどのような立場にあり、何を優先して実行しなければいけないかが明確に分かって来ます。日本のキリスト教界の閉塞感を打破する為に、今までと違った三つの視点(神、信徒、未信者)から見直し、行動を変え、時、新しい変革の道が開けます。それは聖霊の風が吹く道筋をつける事になるでしょう。

## (1) 神の視点

どんな組織でも、最初に、その組織の使命(ミッション)は何かについて徹底的に議論し、それを共有化します。我々クリスチャンにとつて使命は何か、即ち神の視点から見ると我々の使命(ミッション)を最初に明確化しなければなりません。

多くの人は、良いクリスチャンとは礼拝、献金を守り、よく奉仕をする人だと思つています。勿論、それは神の求められておられる事ではありますが、最優先する使命は「大宣教命令」です。教会は「大宣教命令」を最優先して共有化し、教会のビジョン、目標を決め運営がなされているでしょうか。その実行の為に御言葉と祈り(デポジション)により霊性が高められる信徒訓練が必要です。成長している教会の共通点は、大宣教命令に従い信徒が訓練され、社会、職場での生活を通して伝道して行く様に指導されています。神の視点から最初に我々の使命(ミッション)のボタンを正しくかけて下さい。

## (2) 信徒の視点

一五年前に人の信徒が伝道の召命を受け、祈りと御言葉に立ってビジネス伝道に立ち上がりました。そして今インターナショナルVIPクラブとして世界約二〇〇カ所で、数千名近いビジネスマンが仲間への伝道を目的に集まり教会に導き救われる人が多く出ています。又、中国「家の教会」が伸びたのは困っている未信者を愛し仕え

た信徒の働きによります。この様に信徒は使命を自覚し訓練されると社会生活の中での伝道する力があります。だが一般的に信徒は、教会内の奉仕等でエネルギーを使う様な内向きの働きが多い現状です。しかし、多くの信徒は自分が変わり、世の光、地の塩となつて外に友達を作る事。それから明るく愛に満ちた教会に、友達を誘い救いに導く事が必要だと知っています。信徒の伝道の力を引き出して下さい。

## (3) 未信者の視点

魚釣りの好きな人は、魚の種類により釣り方(場所、餌、仕掛け、時、釣り上げる時の合わせ方等)が違います。その魚がどうしたら最も餌を食べなくなるかを工夫しています。釣りとは違いますが、伝道する時、対象の未信者のニーズは何かをよく知り伝道する必要があります。若し自分が未信者であつたら何に困り何を求めるだろうかと考えてみて下さい。伸びている企業は何時も消費者の視点に立って考え、彼らの必要なものを提供しています。伝道も同じです。(以上『エリヤのように』の中に詳しく書きました)

以上三つの視点で現状を見ると、今我々は何を変革すべきかわかります。教会の外には、悩める九九%の未信者の人達がいます。救いの大いなるチャンスが来ています。主は我々の新しい行動を待っておられます。伝道の為の新しい道を整える時、聖霊の風が吹きクリスチャンは喜びに満たされます。